

めざせ一等級比率 95%!
良食味・高品質で安定収量を!

第1号
令和6年4月
JA魚沼
北魚沼基幹営農センター

米づくりV作戦 (R6年産に向けて)

令和5年産米の川口地区のコシヒカリは、1等級比率は1.4%と低く、近隣市町村より低い成績となりました。特に、1等級比率は、魚沼米の評価に結び付く大切な事項であり、このような状況が続くとブランド価値が低下することが心配されます。1等級比率の早急な改善が必要です。

1等級比率を向上させ、食味を保つためには、基本技術が大切です。特に、ケイ酸による土づくりが高温年で品質を守ります。基本技術を抜かりなく実践し、また用水が有効に利用されるよう地域で話し合い、異常気象による高温時でも品質を落とさぬよう、今から準備しましょう。

<令和6年度 川口地区のコシヒカリ目標>

- 10a 当たり収量：510 kg
- うるち玄米1等級比率：95%以上
- 玄米タンパク質含有率（水分15%）：コシヒカリ 6.0%

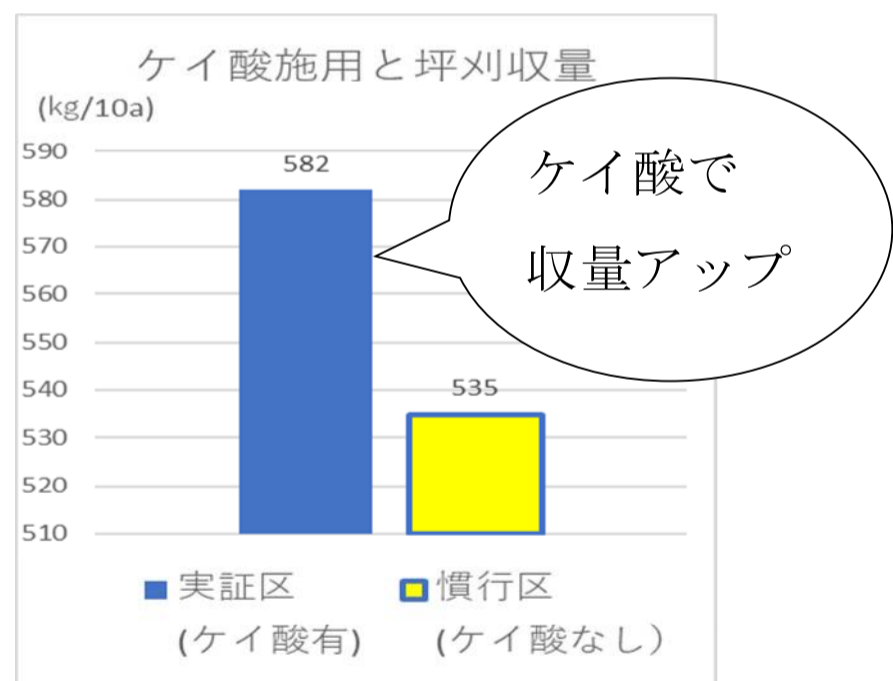
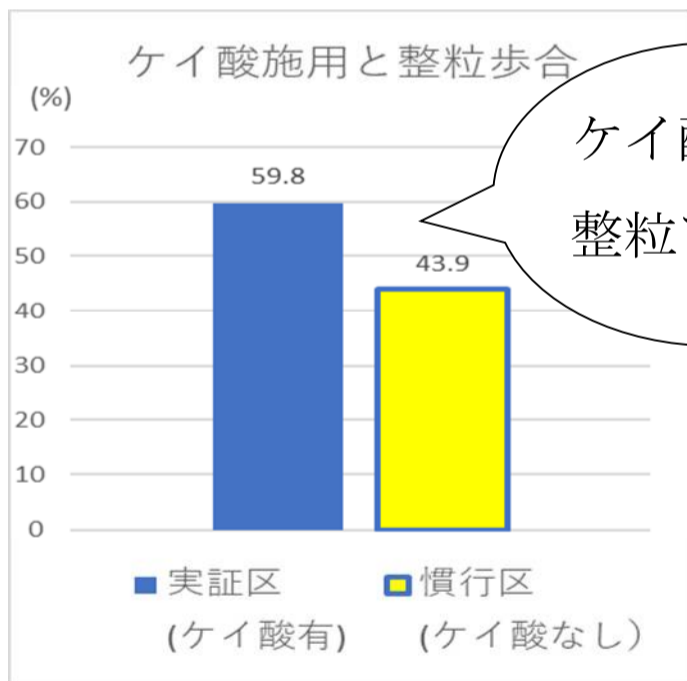
今回は、R6産の品質目標を達成するための重点技術についてお知らせします。

< 令和6年産米の川口地区技術ポイント >

1 土づくり

(1) ケイ酸を含む土づくり資材を施用して、品質向上に努める

令和5年に川口地区で行った、ケイ酸を使ったJAの実証ほでは、①整粒歩合で約16%、②坪刈収量で約50 kg/10aほど、ケイ酸による土づくりを行った実証区で成績がよかった。



資材例※	資材の特徴	標準施用量
・魚沼ロマンソイルキーパー	・ケイ酸中心にリン酸・加里・苦土をバランスよく配合。特にケイ酸は溶出率の高いケイ酸加里を使用。	40 kg～60 /10a
・魚沼ロマンアイアンスター	・土づくりに必要な要素（リン酸・ケイ酸・苦土・鉄・腐植）も含有し、総合的な土壌改良に役立ちます。	60 kg～80 /10a
・ソイル米スター	・低コスト・省力化の土づくり資材。 30 kg(2袋)で9kgのケイ酸を施用できます。	30 kg/10a

※ その他資材についてはJAにご相談ください

(2) 耕深 15 cmの確保

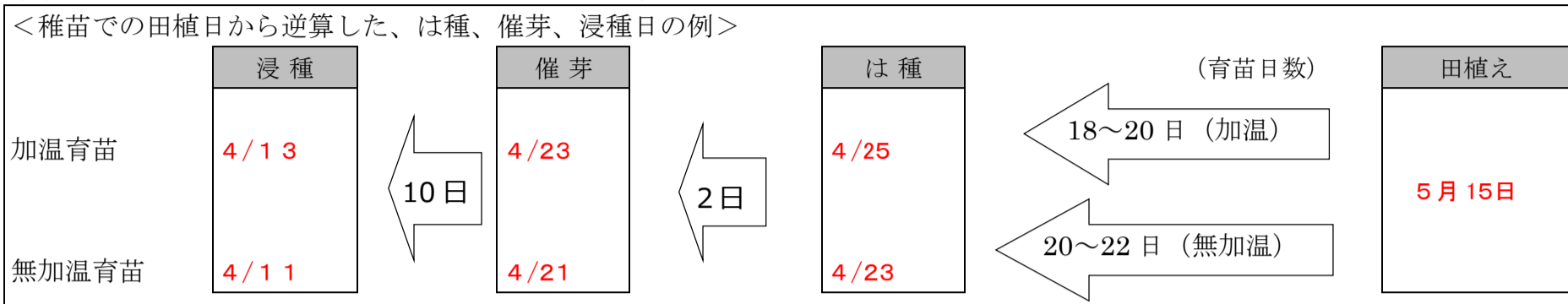
異常高温年度で品質を守る技術の一つが深耕です。耕うん時に確認し作業しましょう。

2 用水の有効利用の取組

- ① 丁寧な代かき、畦塗りや畦シート等の活用による漏水防止等
- ② 地域の話し合いによる用水の有効利用

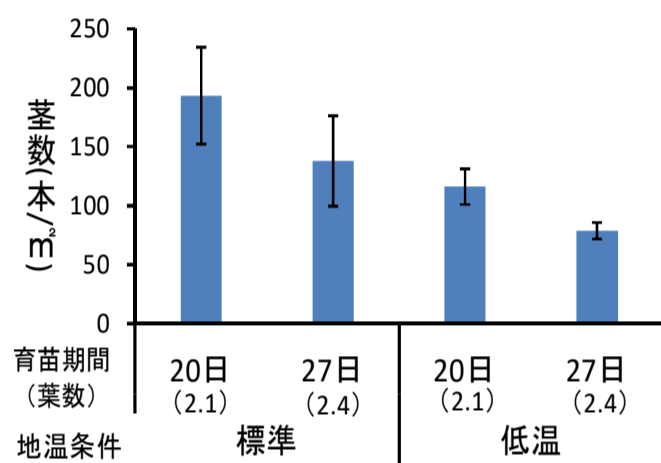
3 健苗育成と適期田植え

(1) 田植時期に合わせて適期は種を行う。



・は種時期を遅くするほど気温が上昇するので育苗期間は短くなります。

- ② 2.0~2.2葉の健苗を育て、
- ③ 適期に田植えを行い良質茎を早期確保する。



・育苗期間が長くなると分げつの発生が劣りやすいので注意する。



図 稚苗の育苗期間が初期分げつの発生に及ぼす影響 (作研セ)

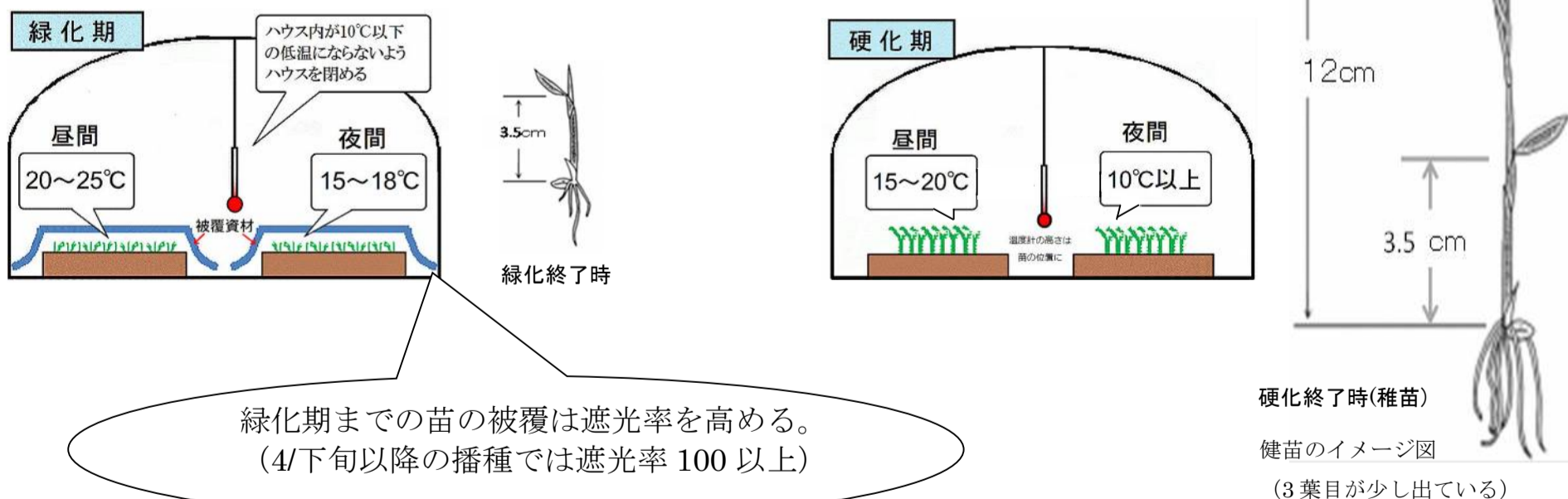
※コシヒカリ、田植 20 日後調査、H25、26 年の平均値、地温条件は移植後 11 日から 10 日間処理、標準: 22.6℃ 低温: 19.8℃、エラーバーは標準偏差

- ④ 適正な温度管理で健苗を育成する。
- ⑤ コシヒカリは、出穂期が 8 月 5 日以降となるようは種を行う。

(2) ヤケ苗防止のため、育苗被覆資材の遮光率を高める

気温が高く高温が予想されます。また、高温対策のため播種時期を例年より遅らせることによりさらなる育苗期に高温に遭遇すること予想されます。

- ・は種時期が遅くなるほど日射量が多くなるため、高温時のヤケ苗発生の危険性が高まります。遅い時期の育苗ほど、遮光率の高い被覆資材の使用や遮光率を高めるための二重被覆等を行い、ヤケ苗を防ぎましょう。



~農作業事故に気をつけましょう~
 不明な点、ご相談等ございましたらお気軽にお声掛け下さい。
 JA 魚沼北魚沼基幹営農センター ☎ 025-793-1770